

内水試  
**かわら版**  
60号

# クロステリウム

## 現わる!

今、霞ヶ浦で水の表面が、キラキラ光っているのに気がついていると思います。これは、植物プランクトンの緑藻の一種であるクロステリウム(ミカヅキモ)がふえているからです。

クロステリウム  
(ミカヅキモ)



クロステリウムは、細い針状のプランクトンです。

が、何個も集まると、互いにかうみ合せて、目で見えるようになりすす。

このクロステリウムは、琵琶湖で大量に増殖するので有名ですが、霞ヶ浦には、昭和四十七年の秋に突如として出現しました。そして、四十八年の春には、大増殖をし、湖面いたる所が、キラキラと光り輝いていました。

その後、全く姿を見せず、もう現われないのかと思っただけなら、五十三年の秋から五十四年の春にかけて、大量に増殖し、健在であることを見せました。それ以後、毎年秋には少しだけ増殖がみられ

るようになり、また、年々を越すと消滅してすす。

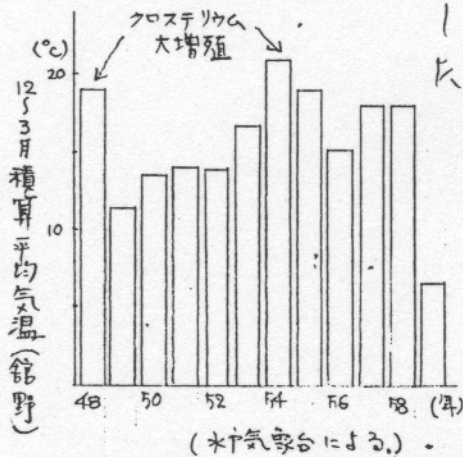
### クロステリウムは悪者か?

クロステリウムを、何故問題にするかといひますと、クロステリウムが大増殖した四十八年と五十四年に、養殖ゴイの大量酸欠死が起きています。このため、クロステリウムと、夏の酸欠との間に、関係があるのではないかと考えられています。

しかし、二回だけの例ですから、もし、来年の春にクロステリウムが大増殖をしても、また、同じように酸欠死が起きるであろうとはいひ切れませんが、注意を持って見

守る必要がありそうです。来春、クロステリウムは大増殖するか?

五十四年以來、クロステリウムの大量増殖がないことは、既に述べましたが、来春はどうかを考えてみます。



因から、クロステリウム大増殖年は、いつも暖冬です。気象庁は、暖冬を予想していますので心配です。

茨城県内水面水産試験場